

# 日本気象学会昭和48年秋季大会

## 東北地方調査研究会

会期：昭和48年10月29日（月）～31日（水）

会場：宮城県民会館（仙台市国分町3-3-7）

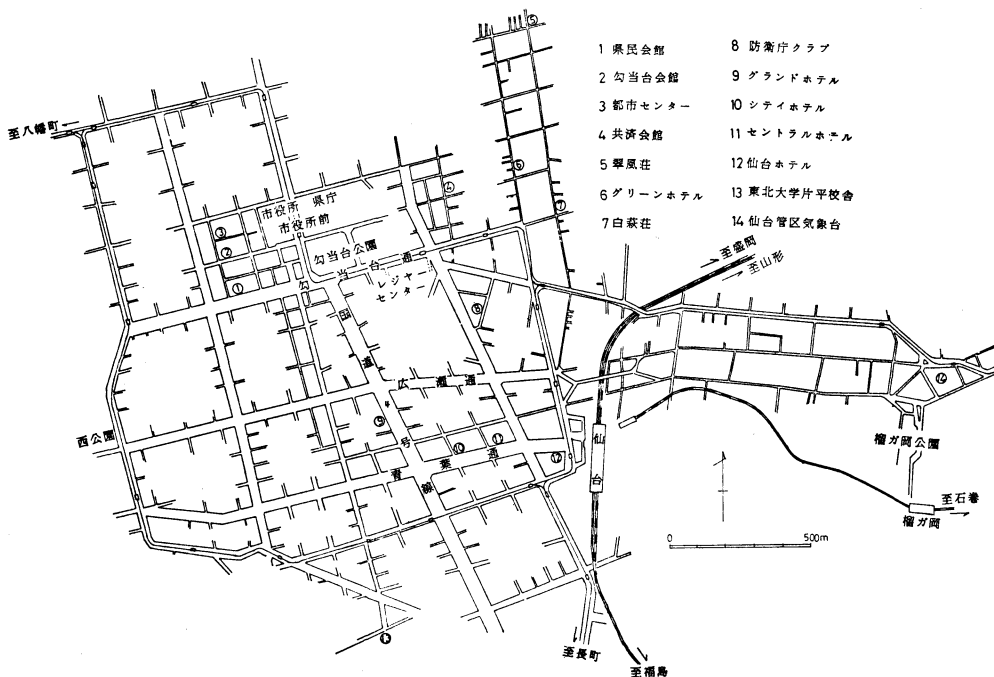
：ニュー・シティ・ホテル（仙台市国分町2-14-23）

（宮城県民会館の南向かい）

### 目 次

大会行事予定表	509
研究発表内容一覧表	509
研究発表題目	511

### 会 場 案 内 図



大会会場および宿泊施設案内 会場 宮城県民会館 国分町3丁目3ノ7

## 大会行事予定表

1. 会場 宮城県民会館（仙台市国分町3-3-7）  
 第1会場：第2会議室（6階）  
 第2会場：第3会議室（6階）  
 第3会場：中ホール（3階）  
 ニュー・シティ・ホテル（第2日午後のみ）
2. 会期 10月29日（月）、30日（火）、31日（水）
3. 行事

10月29日（月）	9.00~12.30	研究発表
	13.30~17.00	〃
10月30日（火）	9.00~12.00	研究発表
	12.00~12.20	記念撮影（第1会場）
	13.20~13.40	理事長挨拶および日本気象学会奨励金贈呈式（ニュー・シティ・ホテル）
	13.40~15.20	討論会（地方の調査研究について）
	15.20~17.00	シンポジウム（新しい計測方法とその利用の展望）
	18.00~	懇親会（勾当台会館、会場より徒歩5分）
10月31日（水）	9.00~12.30	研究発表
	13.30~17.00	〃

## 研究発表内容一覧表

（ ）：座長

		第1会場	第2会場	第3会場
29日(月)	午前 9.00~12.30	境界層 (光田 寧)	雲物理 (菊地 勝弘)	大気大循環とブロッキング (広田 勇)
	午後 13.30~17.00	境界層 (近藤 純正)	積雲対流 (浅井 富雄)	数値モデル・気候 (片山 昭)
30日(火)	午前 9.00~12.00	熱帯気象と台風 (井沢 龍夫)	大気電気とエアロゾル (石川 晴治)	南極気象 (守田 康太郎)
	午後 13.20~17.00	討論会 シンポジウム (ニュー・シティ・ホテル)		
31日(水)	午前 9.00~12.30	中小規模じょう乱 (宮沢 清治)	放射 (田中正 射之)	大気汚染 (田村 邦雄)
	午後 13.30~17.00	AMTEX (岸保 勘三郎)	測器と観測法 (内藤 恵吉)	応用気象 (神山 恵三)

注) 大会参加費 会員 200 円, 学生会員 100 円, 非会員 300 円

## 秋季大会シンポジウム

### 「新しい計測方法とその利用の展望」

1. 日時 大会第2日(30日)(火) 15.20~17.00
2. 会場 ニュー・シティ・ホテル
3. 司会 田中 正之(東北大)
4. 話題提供者
  - 1) レーダー(ドップラーレーダーを含む) 磯野謙治(名大)
  - 2) 放 射 山本義一
  - 3) 気象衛星 土屋 清  
(宇宙開発事業団)
5. 自由討論

## 秋 季 大 会 討 論 会

### 「地方の調査研究について」

天気8月号(Vol. 20, No. 8) 参照

## 秋 季 大 会 予 稿 集 について

定期購読者以外は直接学会事務局へ申込んで下さい。定価1部700円(予定)

## 研究発表題目

大会第1日(29日) 9時~12時30分

## 第1会場 境界層 座長 光田 寧

101. 竹田 厚・平 啓介・三沢信彦(東大海洋研): 海面フラックスの測定とブイプラットフォーム(2)
102. 近藤純正(東北大理): 大気・海洋間の運動量, 顕熱, 蒸発の輸送係数(完結報)
103. 林 泰一(京大理), 花房龍男(気研物理), 文字信貴(京大防災研), 塚本 修(京大理), 光田 寧(京大防災研): 湖面上における乱れの強さと輸送量との関係
104. 竹田 厚(東大海洋研), 林 正康(公資研), 石川浩治(東大海洋研): 海洋上のプラネタリー境界層の乱流構造について
105. 竹田 厚(東大海洋研): 海面の凹凸についての一考察
106. 石井哲雄(日本獣医畜産大), 近藤純正(東北大理): 海洋最上層の数値シミュレーションによる研究Ⅲ(観測との比較)
107. 内藤玄一(防災センター), 近藤純正(東北大理), 藤縄幸雄(防災センター): 風による海洋最上層の流速
108. 加藤晶子・藤谷徳之助・光田 寧(京大防災研): 水平規模 1 km 程度の地表風の乱れの性質について
109. 大塚 伸(気研台風): 係留気球で観測された気温, 湿度, 風速の変動
110. 山本 晋・蒲生 稔・横山長之(公資研): 飛行機による乱流フラックスの測定(その2)
111. 角田道生・須賀新一・林 隆(原研): 海陸風交替ともなる変動風速の日変化
112. 柳沢善次・大塚 伸・神林慶子(気研台風): ミリ波レーダによる晴天対流の観測(第2報)

## 第2会場 雲物理 座長 菊地 勝弘

201. 山下 晃・大畑哲夫・和田 誠(東大理): ヘリウムガス中の氷晶成長
202. 権田武彦・長谷川秀樹(東理大理工):  $-30^{\circ}\text{C}$  と  $-44^{\circ}\text{C}$  の低圧大気中における氷晶の成長(1)
203. 西村修一・孫野長治(北大理): 水滴の凍結荷電に及ぼす純水の放置時間の影響

203. a 遠藤辰雄(北大理): 氷晶の電荷
204. 松原広司(東京管区): 自由大気中における(富士山頂)自然氷晶核の季節変動
205. 桜井兼市(北教大旭川): 過冷却霧粒の凍結による水霧の観測
206. 播磨屋敏生(北大理): 雪片・霰の粒度分布
207. 梶川正弘(秋田高専): 霰の密度について
208. 中村秀臣(国立防災センター新庄支所): 新庄における霰の観測
209. 三浦三郎(青森地台): 青森で今冬観測した新雪の密度と落下速度について
210. 松尾敬世(室戸岬測), 磯野謙治(名大理): 雨滴粒径とその中の海塩濃度

## 第3会場 大気大循環とプロッキング 座長 廣田 勇

301. 湯田憲一(鹿児島地台), 菊池幸雄(気象大): 定常性擾乱に及ぼす山岳の影響
302. 相原正彦・今井博子(気研予報): 冬季定常場の構造とエネルギー論
303. 星合 誠(愛知学院大): 超長波の季節変動第1報
304. 戸松喜一(気研予報): 対流圏と成層圏の相互干渉
305. 佐藤康雄(東大理): 定常プラネタリー波による角運動量と熱の輸送
306. 菊池幸雄(気象大), 石川正勝(気象庁衛星): 運動エネルギーの周期別分布
307. 廣田 勇(気研予報): 夏期中間圏波動のスペクトル解析
308. 廣田 勇・桜井 徹(気研予報): ITOS-VTPR資料による南半球成層圏波動の解析
309. 日下部 清(九大理): 傾いた底をもつ回転水槽の実験
310. 時岡達志・滝川雄壮・森 信成(気研予報): 1967年冬のプロッキングの解析(I)
311. 戸矢時義(高松地台), 菊池幸雄(気象大): プロッキング現象と成分波の振舞い
312. 関根勇八(仙台管区): 1か月子報の立場から見た1971年夏期のプロッキング現象について

## 大会第1日(29日)13時30分~17時

## 第1会場 境界層 座長 近藤純正

113. 花房龍男(気研物理), 光田 寧, 森 征洋(京大防災研), 川西 博(大分大): 裸地面上における熱収支について
114. 林 正康(公資研): 大気乱流の確率分布
115. 塚本 修(京大理), 光田 寧(京大防災研): 慣性領域のスペクトル密度による乱流輸送量の算定について
116. 米谷俊彦(岡大農生研), 文字信貴・光田 寧(京大防災研): 分散値を用いた乱流輸送量の算定について
117. 藤田敏夫(気研予報): 安定度を考慮した二高度バルク法
118. 竹田 厚(東大海洋研): 乱流フラックスの測定誤差の問題(2)
119. 守田 治・瓜生道也(九大理): エックマン境界層流の生成
120. 守田 治・瓜生道也(九大理): 収斂のあるエックマン境界層流
121. 山本義一・安達隆史・安田延寿(東北大), 島貫陸(東京学芸大): 傾圧大気におけるエックマン・スパイラル
122. 北林興二(公資研): 斜面上流側のよどみ流について
123. 中村健治(東大理): 境界層の数値実験
- 123a. 安田延寿(東北大): 接地気層における乱流統計量の相互関係について

## 第2会場 積雲対流 座長 浅井富雄

211. 大河内康正(九大理): 非一様下部加熱と対流—数値実験—
212. 山岬正紀(気研台風): 条件付不安定大気中の対流(3)
213. 椎野純一(気研台風): 尾鷲強雨時における低い対流雲について(定常一次元対流モデルによる考察)
214. 鈴木和史(釧路地台), 斎藤 実(気象大): レーダーで観測される対流性降水のライフタイムについて
215. 藤原美幸(気研台風), 青柳二郎(気研衛星): ドップラーレーダーで観測された上昇流と反射強度の積雲内分布について

216. 大河内康正・宮原三郎(九大理): 非一様下部加熱と対流—室内実験—
217. 宇加治一雄(福岡大理): 水平方向に垂直不安定度の異なる流体層内での対流
218. 大井正一(気研予報), 故山本三郎(河口湖測), 故曲田光夫: 富士山の雲の分類(4)
219. 加藤一靖・佐々木芳春・阿部能明・村上広蔵(秋田地台): 秋田・仙台レーダーによる対流性エコーの比較観測について

## 第3会場 数値モデル・気候 座長 片山昭

313. 木田秀次(東大理): 大気大循環モデルの検討(その二)
314. 植村八郎(気象庁電計), 磯野良徳(東航地台): 山の効果を入れた北半球プリミティブ・モデルによる予報テスト
315. 岡村 存(気象庁電計): アジア地区ファインメッシュ予報モデルについて
316. 小沢 正・内山良子(気研予報): 高度分布等の分類法について(II)
317. 藤原滋水(甲府地台): パターン認識とその応用
318. 正村史朗(名古屋市): 太陽活動に関する新しい周期法則と1972~74年の3年間連続の干ばつ発生の子知について(続)
319. 正村史朗(名古屋市): 太陽活動に関する新しい周期法則と東海道沖(相模灘~遠州灘, 特に相模トラフ)大地震発生の予知について(続)
320. 樋口敬二・藤井理行・小玉秀男(名大理), 五百沢智也: 北アルプスにおける雪溪の分布と気候条件
321. 土屋 巖(気研企画): 気候変動の指標としての多年性積雪の検討
322. 内藤勲夫(緯度観測所): 位置天文観測から期待される大規模海洋変動
323. 福岡義隆(福島大), 佐藤留子(本太中学): 晩霜気候と地勢効果
324. 安藤 清(山形地台): 山形県の晩霜時における最低気温分布
325. 浜松音蔵・新柵信夫(仙台管区): 東北地方に展開した67型テープ式地震計の地震探知力について

## 大会第2日(30日)9時~12時

## 第1会場 熱帯気象と台風 座長 井沢 龍夫

124. 股野宏志(気象庁電計), 岡岡 満(防衛大): 台風  
の大きさについて(2)
125. 石島 英(琉大): 台風域内の海面付近の風速分布
126. 飯田睦治郎(気研予報) 偏東風波動の変化について
127. 安成哲三(京大理): 南半球中緯度偏西風帯の雲の  
スペクトル解析
128. 井沢龍夫(気研台風): 多次元空・時系列解析によ  
る雲運動の決定
129. 和田美鈴(気研台風): 低緯度偏東風帯における順  
圧不安定波の3次元構造(2)
130. 村上勝人(東大理): Critical Latitude 存在下にお  
ける中緯度 Planetary 波と熱帯の非線形相互作用
130. a 今井博雄・武田喬男(名大理): 47. 9 尾鷲豪雨  
の解析(第2報)
130. b 高野憲治(東大理): 関東地域における局地風の  
立体構造

## 第2会場 大気電気とエアロゾル 座長 石川 晴 治

220. 孫野長治(北大理): 雷雲の電荷分布, 電場および  
降水の電荷について
221. 孫野長治(北大理): 降水の電荷について
222. 西村修一・孫野長治(北大理): レーダー・ドーム  
の降雪による帯電に関して(第1報)
223. 中谷 茂(電総研): 自然放射能の連続記録結果
223. a 望月 定(東理大理), 双木泰男(都立深川高),  
関川俊男(東理大理): 地表近傍大気中のイオン対  
生成率の測定(II)
224. 岡田菊夫・磯野謙治(名大理): 大気中のエアロゾ  
ルの湿度特性
225. 森田恭弘・石川晴治・金田昌広(名大空電研): 航  
空機によるエアロゾルの観測結果

226. 石川晴治・森田恭弘・金田昌広(名大空電研): 小  
笠原父島におけるイオン・エアロゾルの観測
227. 川村 清・葛城幸雄・鈴木正基(気研化学): 大気  
エアロゾルの化学成分について
228. 三崎方郎・池上三和子・金沢五寿雄(気研高物):  
広域拡散過程におけるエアロゾル粒径分布の変質
229. 佐藤公喜・竹内純一郎(愛知県公害調査センタ  
ー): エアロゾルの上方拡散による粒径の篩い分  
けについて  
山本義一・田中正之・浅野正二・高村民雄(東北  
大理): エアロゾルの光学的特性に関する実験

## 第3会場 南極気象 座長 守田 康太郎

326. 松原広司(東管), 田中豊頭・斎藤博英(気研物理)  
: 自由大気中における(富士山頂)自然氷晶核の  
研究I—極地観測の基礎として—
327. 松原広司(東管), 田中豊頭(気研物理): 自由大気  
中における(富士山頂)自然氷晶核の研究II—極  
地観測の基礎として—
328. 守田康太郎(気象庁業務): 昭和基地のカタバティ  
ク風について
329. 真木太一(農技研): 昭和基地における接地気層中  
の乱流構造および気候要素の相互関係
330. 安達隆史(東北大理): 昭和基地におけるカタバテ  
ックウィンドの鉛直構造
331. 上田 豊・奥平文雄・渡辺亜直(名大理): 南極氷  
床上の涵養機構と接地気象との関連について
332. 近藤五郎(飯田測): 昭和基地における大気電気観  
測
333. 関原 強(気研高物): 南極における研究観測の提  
案: オーロラX線事象に伴う大気微量成分の研究

## 大会第3日(31日)9時~12時30分

## 第1会場 中小規模じょう乱 座長 宮 沢 清 治

131. 牧田 昭(青森地台): 850 mb 気温による 青森の  
最高気温予報, 寒候期について
132. 菊地勝弘・石川照高・上田 博・藤田慎一(北大  
理): 石狩平野の日降雪量の水平分布
133. 村松照男(札幌管区): 石狩平野の大雪の一解析
134. 八巻陸夫(若松測): 会津地方の雷電の予想(2)

—“Tm 気団”内の雷電—

135. 野口和則・土屋 喬(仙台管区): 卓上電子計算機  
による雷雨予報
136. 猪股清夫(仙台管区): レーダーでみた降雨におよ  
ぼす地形の影響
137. 秋山孝子(気研予報): 47. 7 豪雨の総観的特徴  
—47. 7 豪雨解析の序報—

138. 佐藤善三郎(秋田地台): 秋田における大雨についての子備調査
139. 酒井 一(福島地台): 福島県浜通り地方の大雨について
140. 秋山孝子・二宮洸三(気研予報): メソスケールエコークラスターの列状構造とそれにとまなう下層 jet
141. 七沢 謙(札幌管区): うずエコーについて
142. 宮沢清治(気象庁予報): 日本海上のうず状じょう乱の解析
143. 浅井富雄(東大海洋研): 中規模渦状じょう乱の解析
143. a 長浜宗政・尾崎康一(福岡管区): 九州北部の集中豪雨

### 第2会場 放射 座長 田 中 正 之

230. 会田 勝(横浜国大教): 水平方向不均質大気の取り扱いについて
231. 田中正之(東北大理): 水面の射出率
232. 廣野幹彦(新潟大工): CO の全吸収量
233. 会田 勝(横浜国大教): オゾン 9.6  $\mu$  帯による吸収の実験式
234. 岩坂泰信(名大理): オゾン層における SO<sub>2</sub> の酸化反応
235. 野中善政(東北大理): CO<sub>2</sub>-N<sub>2</sub> の励起移動
235. a 堀井晴雄・岩坂泰信(名大理): CO<sub>2</sub> による中間大気の放射
236. 青木忠生(東北大理): 吸収線圧力幅における非線形的圧力効果
237. 森山 茂(日大習志野): Dust を入れた火星大気の thermal radiation transfer
238. 山本義一・田中正之・太田幸雄(東北大理): 浮遊煤塵の太陽放射吸収による大気の昇温について(II)
239. 山本義一(東北大理), 荒生公雄(長崎大教育): 祝

程の経年変化と大気混濁

240. 荒生公雄(長崎大教育): IGY 期と70年代初頭における turbidity の変動
241. 高橋利保(新潟大教養), 鈴木陽典(新潟大理), 矢野 教(新潟大教養), 渡辺俊英(新潟大理): 大気偏光度の観測
242. 福山 薫(京大理): OH 帯夜光の赤外写真撮影(序報)

### 第3会場 大気汚染 座長 田 村 邦 雄

334. 横山長之(公資研): Wiener フィルターによる風速, SO<sub>2</sub> 濃度などの予測
335. 河村 武(気象庁予報): 客観的予報資料を用いた水島地区の亜硫酸ガスの気象予報
336. 東谷平治(小名浜測): いわき地区の大気汚染と気象
337. 菊地勝弘(北大理): 降雪の電気伝導度, pH 測定からみた札幌市の大気汚染の拡がりについて
338. 小野寺晶夫(仙台管区): 宮城県における海陸風発達期間の風の日変化について
339. 川村 清・伏見克彦(気研化学): 大気窒素酸化物の測定法について
340. 大喜多敏一(公衆衛): 大気中の粒子状およびガス状塩化物の測定
341. 大喜多敏一(公衆衛): 大気中硝酸ガスおよび粒子状硝酸塩の測定
342. 石垣 隆・磯野謙治(名大理): 都市大気中の硫酸カルシウム, 硫酸マグネシウムその他の粒子について
343. 大喜多敏一(公衆衛): 霧粒や雨滴による亜硫酸ガス除去率(I)
344. 小路正弘(神戸市公害対策部): オキシダントと SO<sub>2</sub> のピークが近接する現象について
345. 市村市太郎(気研台風), 神山恵三(気研応用): 上層におけるアルミ箔の腐蝕現象について

## 大会第3日(31日) 13時30分~17時

### 第1会場 AMTEX 座長 岸 保 勘三郎

144. 吉崎正憲(東大理): 最小自乗法を用いた上昇流の評価について
145. 吉住禎夫(気研予報): 梅雨前線帯上のじょう乱の解析
146. 二宮洸三・秋山孝子(気研予報): 冬季黒潮海域の擾乱のレーダー観測例

147. 二宮洸三(気研予報): 冬季黒潮海域の小領域における積雲対流と熱収支
148. 浅井富雄・東辻千枝子(東大海洋研): 冬季南西諸島付近における対流圏の構造(2) —AMTEX 予備調査—
149. 浅井富雄(東大海洋研): 冬季南西諸島付近における対流圏の構造(3) —AMTEX 予備調査—

150. 丸山健人・常岡好枝(気研予報)：南西諸島上空の周期1～3日の擾乱
151. 竹内衛夫・阿部克也(気研予報)：海洋上の低気圧発生の研究(第2報)
152. 大井正一・藤田敏夫・本多備孝・内山徳栄(気研予報)：日本付近における低気圧の発生(5)南西諸島
153. 安田延寿・浅野正二(東北大理)：海面上の熱収支—AMTEX 予備観測—

## 第2会場 測器と観測法 座長 内藤 恵吉

243. 高橋延男(気研衛星)：簡易な複合型微風向風速計の試作
244. 田平 誠(愛知教育大)：ラインマイクロホンによる風のノイズの減殺について
245. 木村忠志(防災センター)：TK-1型積雪の深さ計
246. 小平信彦・村山信彦・辻倉陽三(気研衛星)：わが国の静止気象衛星について
247. 村山信彦・高島 勉(気研衛星)：衛星による大気エアゾール検出について
248. 高島 勉(気研衛星)：気球によるエアゾール観測の結果についての解釈との問題点について
249. 青柳二郎・小平信彦(気研衛星)：オメガゾンデについて
250. 青柳二郎・小平信彦(気研衛星)：オメガ高層風観測方式について
251. 佐藤義正(宮古測)：検潮記録に現われる二次振動と波浪(検潮記録による沿岸波浪の監視)
252. 村山信彦・高島 努・辻倉陽三(気研衛星), 井上多門(東芝総研), 宮内一郎・鈴木啓太郎(東芝)：ATS 画像の風解析における閾値設定について

## 第3会場 応用気象 座長 神山 恵三

346. 靱山政子(気研応用), 片山功仁慧(東大医), 竹内寿一郎(慶応大工)：日本における乳児死亡の緩慢化傾向について
347. 神山恵三・根本修・木藤熙子(気研応用)：フィトンチットについて
348. 浜 昊一(気研応用)：降水量におよぼす大気汚染の影響について
349. 浅井辰郎(お茶の水女子大)：中層ビル内における「自然室温」の周年成層現象
350. 小岩清水(専修大)：谷川岳：一ノ倉沢における降雨と流出
351. 西内 光(大阪府大農)：季節的接地微気候と植物の生育との対応
352. 井上君夫(農技研気象)：作物群落の炭酸ガス環境と光合成のシミュレーション
353. 加藤吉男(八戸測)：石巻湾の海況とかき幼生浮ゆう数との関係
354. 栗原正之(北海道電力技研)：北海道型電線着雪を起す気象について
355. 千秋鋭夫・下田 修・西宮 昌(電中研)：海塩の内陸分布(Ⅱ)
356. 西宮 昌・赤井幸夫・関 照夫(電中研)：気中塩分の観測—その1—測器と観測方法
357. 山下邦博(消防研)：火災の風下に生ずる渦について
358. 塩谷正雄・岩谷祥美・黒羽圀夫(日大生産工)：建物近傍の風の乱れの測定